

厳しいレッスンに耐え
開花させたヴァイオリンの才能

世界的なオーボエ奏者、宮本文昭氏を

父に持つ宮本笑里さん。幼いころから音楽の英才教育を受けていたと思われがちですが、意外にも、お父さんは宮本さんが音楽家になることには反対だったといいます。

「幼少期はドイツで過ごし、父が毎日練習し、演奏する姿を見聞きして育ちました」と思います。でも、父からは一度も「音楽をやりなさい」と言われたことはありません。父自身、音楽家になるまでに大変な思いをしていて、留学時代はパンも食べられない毎日だったようです。だから、娘には同じような経験をさせたくないかったのでしょうかね」。

しかし、小学生になり、日本に帰国し

た宮本さんは、たまたま見学に行つた音楽教室で楽器に触れ、「私も演奏してみたい」という思いが募つたといいます。

「ヴァイオリンの先生が一番やさしそうだったことが、実はヴァイオリンを選んだ理由なんです。その先生でなければ、続かなかつただろうと思います。出会いに感謝ですね。ヴァイオリンをやることを、母はすぐに賛成してくれましたが、父は留守がちだったので、事後承諾になつてしましました。ある日、父が帰ってきたとき、私がヴァイオリンを弾いていたので、びっくりしてしまつて、開口一番言わされたのは、『やめなさい』でした。でも、ヴァイオリンを弾くのは自分自身を表現できるとても楽しいワクワクする時間でした。それを取り上げられるのは困るので、『どうしても、やりたい』と突っぱねました。以降、父は、やめなさいと言わぬ代わり、アドバイスなども一切な

く、放つておかれた感じでした」。とはいって、毎日必死でヴァイオリンに向き合うというよりは、週1回のレッスン日と、その前日にだけ練習するという、意外なほどほんびりとしたスタンスで続けていた宮本さん。中学生になったとき、そんな娘に業を煮やした文昭氏は、「今までには中途半端。プロになるために気持ちを切り替えて真剣に取り組むか、やめるか、どちらか選びなさい」と決断を迫つたそうです。

「父に言われてハツとなりました。確かにこのままじゃいけない。そう思った瞬間から、やつとエンジンが掛かり、父にも改めて『ヴァイオリンをやらせてください』とお願いしました。それからはもう、猛レッスンの日々です。父との関係性も、親子ではなく、師匠と弟子になりました。厳しく教えられました」。



インタビュー

えみり

宮本笑里

ヴァイオリニスト

天賦の才能で多くのファンを惹きつける
ヴァイオリニスト・宮本笑里さん。

コロナ禍で改めて音楽の大切さに気づいた今
1人でも多くの人に音楽の魅力を伝えるべく
クラシックはもちろん、ポップスやロックなど
さまざまなジャンルに挑戦しています。

活動を続ける原動力やご家族のことなど、お話をうかがいました。

02 インタビュー

06 教えて！ 知るばると
投資信託Q&A

10 マンガ「わたしはダマサレナイ!!」
インターネットバンキング&ATM
セキュリティ対策で
口座を不正利用から守る！

13 連載・エッセイ⑦
野菜と暮らす春夏秋冬—冬野菜
榎原道子
野菜料理家・フードコーディネーター

16 そこが知りたいくらしの金融知識
終活で知っておきたいこと

22 誌上セミナー
キャッシュレス時代における
家庭の金銭教育
キーワードは「親子で学ぶ」

26 特別企画
東京都金融広報委員会設立70周年記念対談
子どもたちの未来に向けた金融教育
～危機に備えた家計管理と生活設計～

29 まなびや訪問
宮城県登米市立上沼小学校

30 おたよりコーナー
漢字矢印パズル

31 都道府県金融広報委員会一覧
編集後記

ヴァイオリンを弾くことで
自分を表現できたことが何よりうれしかった



せんが、プロの音楽家として、演奏の根幹ともいえる「どう歌うか（奏てるか）」という部分を教えてくれたといいます。

ニストとしてのキャリアを重ねていきました。

樂器を奏でるとき、技術的なことはもちろん大事ですが、それ以上に大切なのは、その曲が作られた背景や作曲家自身についてしっかりと理解し、紡がれるストーリーを咀嚼して演奏すること。そこから、演奏者それぞれのオリジナルな表現が生まれ、人の心に伝わるような「歌い方」ができるようになります。文昭氏は、

それを「から叩きこんでくれたのです。『ただ、父のレッスンはとにかく厳しくて、辛くて毎日泣いていました。心が折れそうになることも何度もありました。それでも、厳しいレッスンのあとには『成長できたかもしない』と手ごたえを感じることもあつたので、これはもう、父についていくしかない、今はそういう時期なんだと自分に言い聞かせて、練習を続けました』。

試練を乗り越え、14歳で参加したドイツ・デュッセルドルフの学生音楽コンクールで、宮本さんは見事1位を獲得。晴れてヴァイオリニストとしての一歩を刻むことができました。

その後、2007年にCDデビューを果たしてからは、TBS系テレビ『THE世界遺産』のメインテーマやNHK大河ドラマ『天地人』の紀行テーマの演奏家として抜擢され、紅白歌合戦にも出演。着実に活躍の場を広げ、ヴァイオリンジエルの創始者・宗次徳一さんからは、



宮本家の教えは「無駄づかいはしないが、大事なことには惜しまず使う」

ヴァイオリニストにとって、最も大事なのは樂器との出会いです。現在宮本さんが弾いているヴァイオリニンは約300年前に作られた名器「ドメニコ・モンタニャーナ1720-30」。これは、NPO法人イエロー・エンジエルより貸与を受けているもので、家や高級な車が買えるくらい大変高価で貴重な樂器です。

「偶然にも、ありがたい縁やつながりがあつて、貴重な樂器を借りる機会を得ることができました。デビュー当時、私は父に買ってもらった比較的新しい樂器で演奏していたのですが、コンサートホールが大きくなつていってくれ、だんだん自分の奏でたい音楽や響きが、この樂器では出せないという思いが募つていきました。ほかの音樂家の方にも相談して、100台以上は試し弾きをしたでしょうが。その結果、オールドの樂器を弾く、という結論にいきついたんです。ヴァイオリンは古ければ古いほど、より味わいのある音が出ます。歴史が物語る音の厚みや深さが全然違うんです。今の樂器を弾いたときは、ああこれだなと、ぴったりくる感触がありました。イエロー・エンジエルの創始者・宗次徳一さんからは、

『いい音楽を皆さんに届けてください』と
いう温かいお言葉をいただけて、本当に
ありがとうございました』。

ただし、300年もの時を経た、古い
ヴァイオリンですから、当然、メンテナ
ンスには相当気を遣います。梅雨時など
湿度が高い時期は楽器が歪みがちになつ
たり、音がなかなか鳴らなかつたりする
こともあります。月に1～2回は修理に出さ
なくてはなりません。メンテナンス代は
もちろん宮本さんが持つそうです。

「メンテナンスには躊躇せず、お金を注
ぎこみます。もともと、必要なこと、大
事なことにはきちんとお金は使うべきだ
と思っていきますので。その代わり、無駄
づかいはしません。これは宮本家の教え
でしたね。だから、おこづかいは、高校
生のときでも月1000円の範囲内でや
りくりしなさいと。もちろん、学校に行
く交通費や教科書代、制服代などは出し
てもらっていましたが、それ以外で、自
分が欲しいものはおこづかいの中から買
う、という方針です。1000円って、
今考えると、結構厳しいですよね（笑）。

でも、そのおかげで、やりくりする感覚
が身に付いたと思っています。

家庭の食事もごく普通で、外食はあま
りさせてもらえませんでした。小さいこ
ろからぜいたくしきるとよくない、と
いうのが父の考え方だったんですね。大人
になつて、自由に外食ができるようにな
り、いろいろなおいしいものに出会つた

ときは、その度に感動していました（笑）。

家族とともに、これからも 自分らしい音を奏でていきたい

ヴァイオリンを愛し、演奏家として活
躍を続ける宮本さんですが、過去に一度
だけ、演奏活動をお休みした時期があり
ました。現在6歳になるお嬢さんを出産
し、育児に専念した時期です。

『妊娠期間中は動いたら危ないといわ
れ、ずっと安静にしていなくてはならな
かつたので、とてもヴァイオリンどころ
ではありませんでした。出産後は、もち
ろん、子どもファーストの生活になりま
したから、練習する時間はありません。

2年ぐらいそんな状態が続いたので、正
直、またヴァイオリニストに戻れるのだ
ろうか、という不安がよぎつたこともあ
りました。『ヴァイオリンはやめたくな
い』という思いがある一方、練習してい
ない状態ではとてもお客さまに聴いてい
ただくことはできない。やりたいけれど
できないというせめぎ合いが、自分の中
で、ずっと続いていましたね』。

不安な思いの中、それでも演奏に必要
な筋力を落とさないようになると、指の運動
など欠かさず続けたという宮本さん。や
がてお子さんが1歳を過ぎ、手が離れる
ようになると、自由な時間も少しずつ増
えていきました。そんなころ、ある方から、
番組の生放送に出演しないか、と声を掛け
てもらつたのがきっかけとなり、徐々

に音楽活動を再開することができました。
「娘も今では、『練習したいんだけど、
いいかな？』と聞くと、『どうぞ、どうぞ。』
頑張ってね』なんて言つてくれます。理
解があつて、ありがたいですね（笑）。ただ、
ヴァイオリンにはあまり興味がないみたい
です。以前、子ども用のおもちゃのヴァ
イオリンを買ってあげたんですけど、見
事に真つ二つに割つてしまつて（笑）。も
しかしたら、私のように、あとから『や
りたい』と言つたかもしれません、今は
様子を見つめているところです。もちろん、
音楽以外の、全然違うことに興味を持つ
なら、それはそれで自由にやらせてあげ
たいなと思います』。

クラシック音楽やヴァイオリンは、ま
だまだ敷居が高いイメージがあるといわ
れます。ですが、本来は、肩ひじ張らずに、ラ
フな服装で気軽にコンサートに出かけて
もなんの問題もありません。もつと身近
にクラシックを楽しんでもらえるきっかけ
になればと、宮本さんはデビュー時か
らずっと、ポップスやロックにも挑戦し
てきました。

『いろいろなジャンルの音楽を演奏する
ことで、『宮本笑里』という音楽家ができ
あがつてていると思うし、私がポップスを
演奏することで『ヴァイオリンってこんな
こともできる楽器なんだ』と、多くの
人に知つてもらえたうれしいです。

オリジナル楽曲も大切だと思つてい
て、その第1弾として初めて全曲オリジ
ナルの『Life』というアルバムをリ
リースしました。同時に、クラシックの
アルバムも継続して出したいですし、そ
のへんはバランスよく、やりたいですね』。

昨年は、春先からの新型コロナウイルス
の影響で、思うような活動ができなかつ
たそうです。

「でも、自粛期間は、自分自身のことや
音楽を見つめ直すいい機会になつたと思
います。音楽の必要性、存在の大きさを
改めて痛感しましたし、コンサートホー
ルなどで聴く『生の音』のすごみ、醍醐
味は、その空間でしか絶対に分からな
いことですから。そういう生の音楽に日常
から触れる機会があることのありがたみ
を、改めて感じ、音楽の魅力や価値を多
くの人に届けたいと思いました。

人生100年時代といわれていますか
ら、私もまだまだこれから。年齢に関係
なく、皆さんと一緒に、音楽という時間
を共有できるよう、精進を重ねていきた
いです』。

プロフィール



宮本笑里
みやもと・えみり

東京都出身。14歳の
とき、ドイツ・デュッセ
ルドルフの学生音楽コ
ンクールで第1位獲得。
2007年『smile』でアル
バムデビュー。2008年
TBS系テレビ『THE世
界遺産』メインテーマ曲

に抜擢。アニメ『のだめカンタービレ巴里編』エンディ
ングテーマにも起用され、コンサート活動を本格化させ
る。音楽家として活動する一方、CMやテレビ番組にも
数多く出演。2020年発表のアルバム『Life』は全曲オ
リジナル曲を収録し話題を集める。